

## 1-7. 土地利用の状況

第1回調査では、国土数値情報により解析を行った結果、沖縄県の広域モニタリング調査地域は自然度が高かったことがわかった。最大の割合を占めるのは「森林」で、そのうちでも自然林がある程度の面積を占めており、同じように森林面積が広かった兵庫県の調査地域よりも自然度は高かった。

第2回調査時の土地利用図を図1-7-1に示した。

図1-7-1から、脊梁山地を中心に大部分が針葉樹林および広葉樹林からなる「森林」で占められ、海岸に沿って「畑」、「田」、「建物用地」が分布していたことがわかる。このうち「畑」は海岸段丘から山地にかけて、「田」と「建物用地」は低地に位置した。

山地には、ダム開発、道路開発が見られた。ダムは太平洋側の斜面に2つ作られた。道路開発は沖縄自動車道が太平洋側から東シナ海側に向かって走り、許田がその終点であった。また海岸段丘上では、各所で農地開発事業や土地改良総合事業、ゴルフ場の開発が行われた。低地・海岸については、名護市街地の西部への拡張に伴う水面埋立や国道58号の改良工事にともなう水面埋立が見られた。

第1回調査時と比較すると、新たに3つのゴルフ場開発が行われた。これらのゴルフ場は全て山地の森林地帯と台地の境界部に位置しており、以前は「畑」や「森林」であった部分であった。

また沖縄県では第2回調査時に1961年時点での土地利用図を作成したため、それを図1-7-2に示した。このころは内陸部に広葉樹林、名護湾に面した西海岸川に針葉樹、大浦湾に面した東海岸川に針広混交林が分布していた。第4回調査時に市街地となった海岸付近の低地もほとんどが針葉樹林により覆われていたことがわかる。北部の市街地を除き、居住地や畑、水田等は海岸線に沿ってわずかに分布しているのみであった。

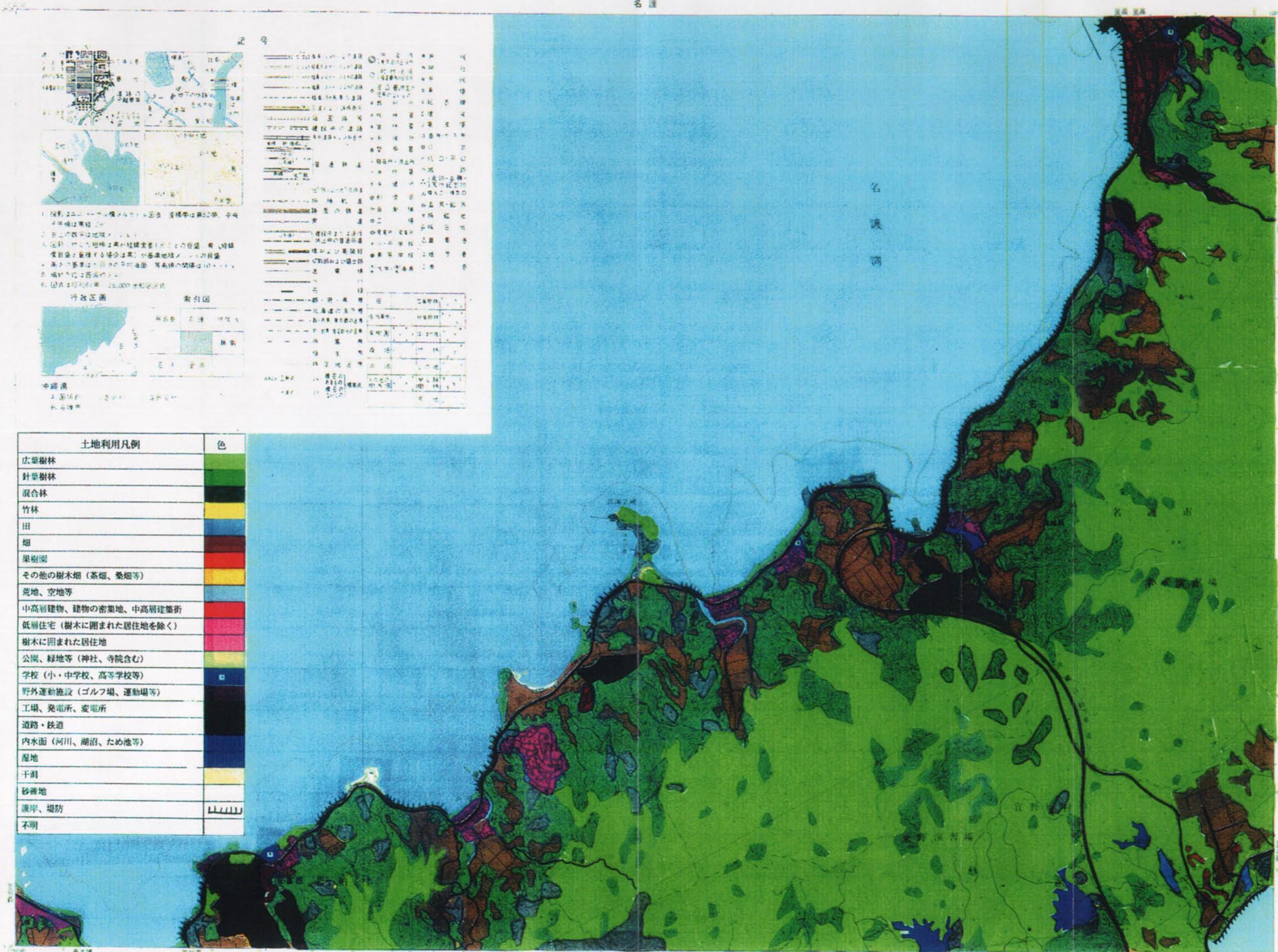
図1-7-1と図1-7-2とを比較すると、広葉樹林が内陸部から海岸方面へと分布を広げ、針葉樹と広葉樹との明確な境がなくなってきたことがわかる。その他、山間部ではダムや道路などの開発が行われ、台地部では畠地や居住地、ゴルフ場等が開発され、森林の面積がかなり減少していた。

# 土地利用図(現況)

## 名護南部

1:25,000 地形図 NG-52-27-1-2  
なごなんぶ (部類 2号-2)

3927-67



出典：「第4回自然環境保全基盤調査（現存植生図）」環境省（平成3年）

航空写真（1993年）

「平成8年度土地利用動向調査」沖縄県企画開発部（平成8年11月）

1:25,000 名護南部

著作権所有者：国土地理院 許可なく複数を複数  
平成4年1月1日発行（3色刷） 1刷

図 1-7-1 現況土地利用図(第2回・沖縄県)

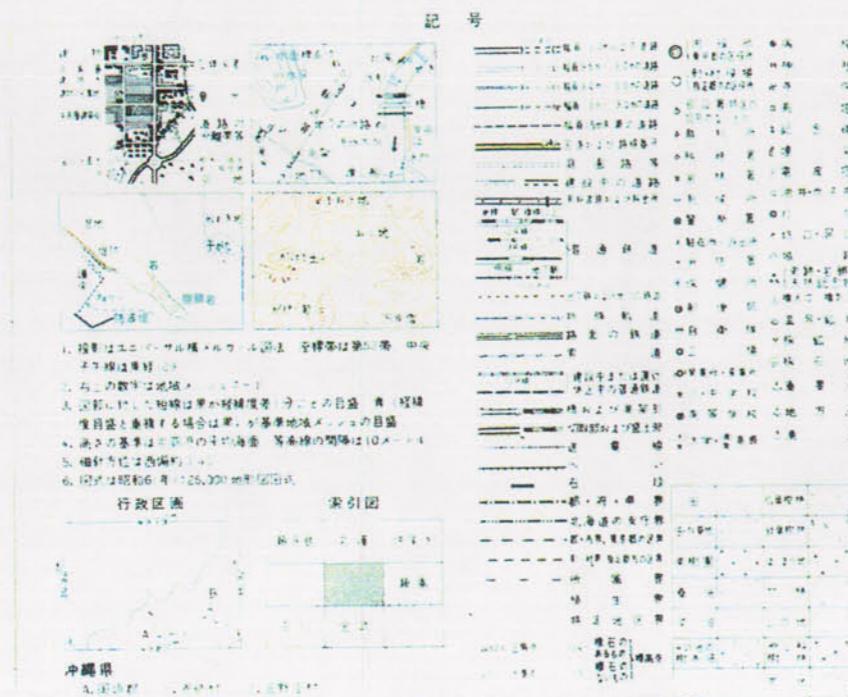
# 土地利用図(1961年)

名護南部

名護

3927-67

1:25,000 地形図 NG-52-27-1-2  
なごなんぶ (那覇 9号-2)



土地利用凡例	色
広葉樹林	緑
針葉樹林	黒
混合林	黒
竹林	黄
田	青
畠	赤
果樹園	赤
その他の樹木畠（茶畠、桑畠等）	黄
荒地、空地等	白
中高層建物、建物の密集地、中高層建築街	赤
低層住宅（樹木に囲まれた居住地を除く）	赤
樹木に囲まれた居住地	黒
公園、緑地等（神社、寺院含む）	緑
学校（小・中学校、高等学校等）	白
野外運動施設（ゴルフ場、運動場等）	白
工場、発電所、変電所	白
道路、鉄道	黒
内水面（河川、湖沼、ため池等）	水
湿地	水
干潟	水
砂灘地	水
護岸、堤防	黒
不明	白



出典：「1:50,000地形図 名護」 国土地理院（大正10年測量、昭和36年(1961年)応急修正）

備考 この地図は、正式の修正測量に代わり、各種資料に基づいて応急的に修正したものである。

1:25,000 名護南部

著作権所有者発行者 国土地理院 許可なく複数を複数する  
平成4年1月1日発行 (3色刷) 24

図 1-7-2 1961年時点 土地利用図(沖縄県)

## 1-8. 大規模開発の状況

第2回調査時の大規模開発分布図を図 1-8-1 に、大規模開発および計画の種類等を表 1-8-1 に示した。

事業の種類は、土地改良事業および大規模造成地（ゴルフ場開発事業、リゾート事業）の2つである。最も多かったのはゴルフ場開発事業で、第2回調査時に既に完了した事業と予定の事業をあわせて3つの計画があった。第1回調査時までに記載したものも含めると、広域モニタリング調査地域内に5つのゴルフ場があった。地形の大規模開発を伴うゴルフ場開発は、山地部と台地部の境界線上に計画され、ゴルフ場開発の予定地が、農耕地と森林から構成される里山地域に特化していることがわかる。

第2回調査での開発計画を地域別に見ると、特に一地域に集中せず、ある地域での市街化が急速に進んだとは言えない。しかし第1回調査で確認された計画も含めると、開発の進んだ地域が見えてくる。場所としては名護市の数久田周辺、許田周辺、そして恩納村安富祖周辺である。これらの地域では土地改良事業等とともにゴルフ場などの観光誘致につながる事業が計画され、ここ10年ほどで急速に市街化が進んだことがわかる。

このうち、恩納村安富祖に計画された海邦カントリークラブは、広域モニタリング調査の猛禽類調査および中・大型哺乳類調査の調査地点の直近であった。

表 1-8-1 大規模な開発・計画

事業の種類	事業名称	場所	面積 <sup>注1)</sup>	開始	完了
土地改良事業	県営農地開発事業	宜野座村真平原～松田	57.6	S54	H4
	県営畠地帯総合土地改良事業	名護市数久田	36.3	S62	H6
大規模造成地	海邦カントリークラブ	恩納村安富祖	110.1	H4	H6
	ブセナリゾート	名護市喜瀬	16.7	H4	(H7) <sup>注2)</sup>
	名護パブリックゴルフ場	名護市許田	26.0	H7	H8
	名護シーサイドカントリークラブ	名護市数久田	105.0	—	—

注1：面積の単位はha

注2：()は予定期である



名護南部

3927-67

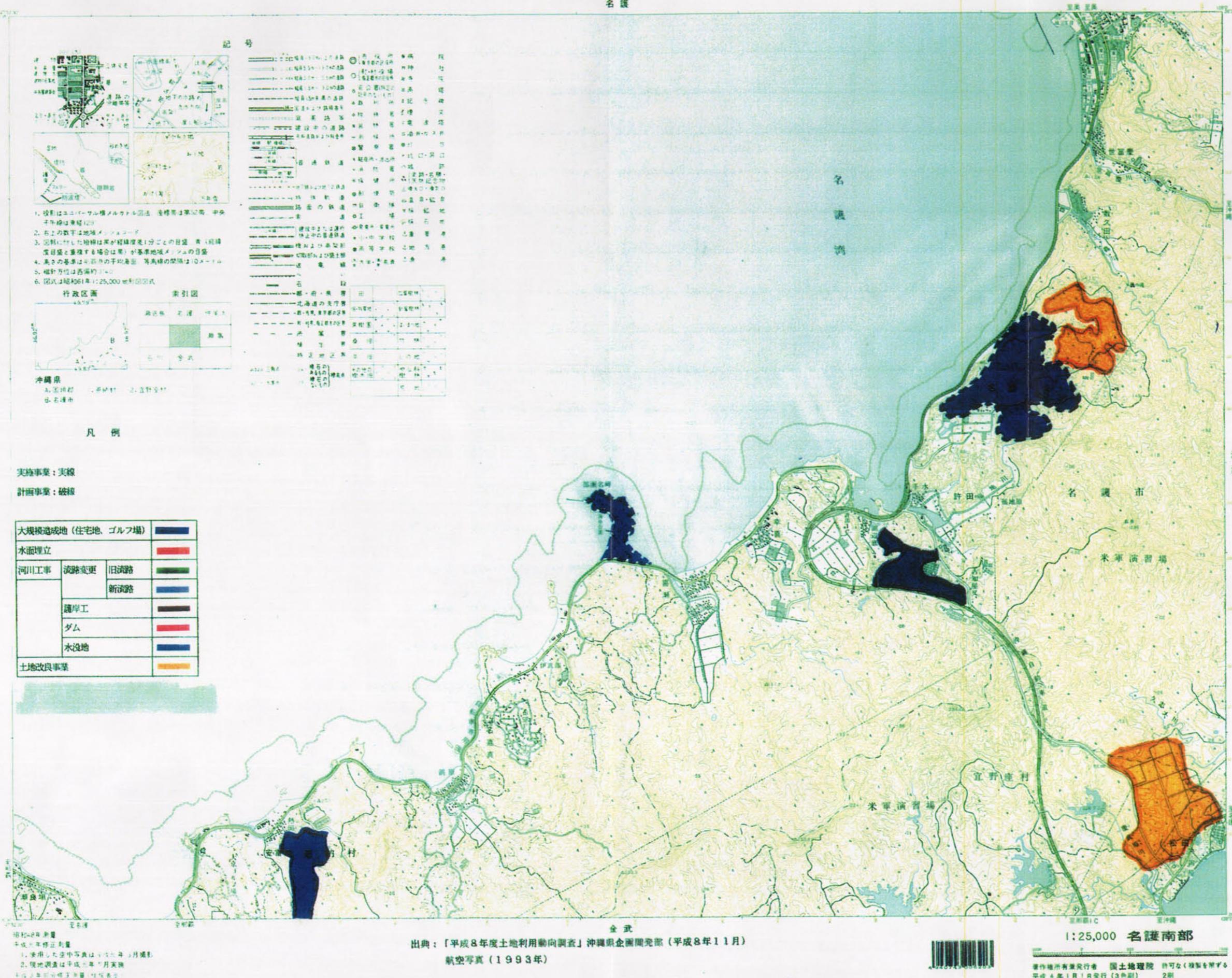


図 1-8-1 大規模開発分布図(第2回・沖縄県)